

第10回日中学者中国古代史論壇

主催：一般財団法人東方学会、中国社会科学院歴史研究所

期日：2018年5月19日(土) 会場：日本教育会館7階会議室(千代田区一ツ橋)

2018年5月20日(日) 会場：早稲田大学戸山キャンパス33号館3階第1会議室(新宿区戸山)

学際化する中国学——中国学発展の方法論の探求

(跨学科下的中国歴史与文化研究——中国歴史与文化研究発展的方法論探索)

2018年5月19日(土)、会場：日本教育会館7階701・702会議室(千代田区一ツ橋)

全体会 10:30-12:00

開会挨拶：池田知久(東方学会理事長)、卜憲群(中国社会科学院歴史研究所〔以下、歴史研究所〕所長、研究員)

司会：井川義次(筑波大学教授)、楊艶秋(歴史研究所副所長、研究員)

発表：卜憲群(歴史研究所研究員)：林甘泉史学研究的理論与方法(中国語)

渡邊義浩(早稲田大学教授)：「古典中国」における史学と儒教(日本語)

陳支平(厦門大学教授)：民間文献与中国歴史、文化研究(中国語)

王啓發(歴史研究所研究員)：郭沫若在思想史研究上の成就和貢獻(中国語)

第1部会 13:00-17:00

司会：渡邊義浩、王啓發

発表：李振宏(河南大学教授)：関于思想史研究方法論的思考(中国語)

井川義次(筑波大学教授)：イエズス会士による東洋情報取得と「四書」翻訳の実情(日本語)

周群(中国社会科学院雑誌社副主編)：世界文明史視域下的啓蒙(中国語)

長谷川順二(学習院大学講師)：黄河安流説の再検討—リモートセンシングデータを利用した黄河古河道復元(日本語)

張興照(歴史研究所副研究員)：商代地理研究的進路与方法(中国語)

牧角悦子(二松学舎大学教授)：経学と文学—詩経研究を例として(日本語)

李紅岩(中国社会科学院雑誌社副総編)：從強制闡釈到公共闡釈—中国学者对史学方法的思考趨向(中国語)

劉中玉(歴史研究所副研究員)：形象史学方法論之于中国古史研究的意義—從“左圖右史”傳統談起(中国語)

肖永明(湖南大学教授)：《孟子》“聞誅一夫紂”的詮釈与儒家政治倫理觀的演變(中国語)

清野充典(順天堂大学研究員)：『靈枢』經脉第十に見える是動病・所生病について(日本語)

張生(南京大学教授)：民国前史—世界史在中国歴史叙述中的進入(中国語)

2018年5月20日(日)、会場：早稲田大学戸山キャンパス33号館3階第1会議室(新宿区戸山)

第2部会 10:30-14:20

司会：牧角悦子、陳支平

発表：楊艶秋(歴史研究所研究員)：朝鮮文献中的袁黄形象—兼論中国歴史研究的視角問題(中国語)

孫衛国(南開大学教授)：朝鮮王朝对元世祖忽必烈歴史形象的塑造(中国語)

河野貴美子(早稲田大学教授)：日本の古典籍および学術文化史から考える中国学の方法論(日本語)

劉屹(首都師範大学教授)：“1052年末法開始説”的形成与展開—以遼朝和日本佛教為中心(中国語)

趙現海(歴史研究所副研究員)：中国古代的“差序疆域”及其前近代特徴(中国語)

桓占偉(河南大学副教授)：研究先秦思想觀念的多維視角(中国語)

小島毅(東京大学教授)：士大夫たちの思念を求めて(日本語)

劉曉(歴史研究所研究員)：有例可援，無法可守—遵循先例原則在元代司法審判中的具体運用(中国語)

総合討論 14:20-15:00 司会：牧角悦子、陳支平 コメント：柿沼陽平(帝京大学准教授)